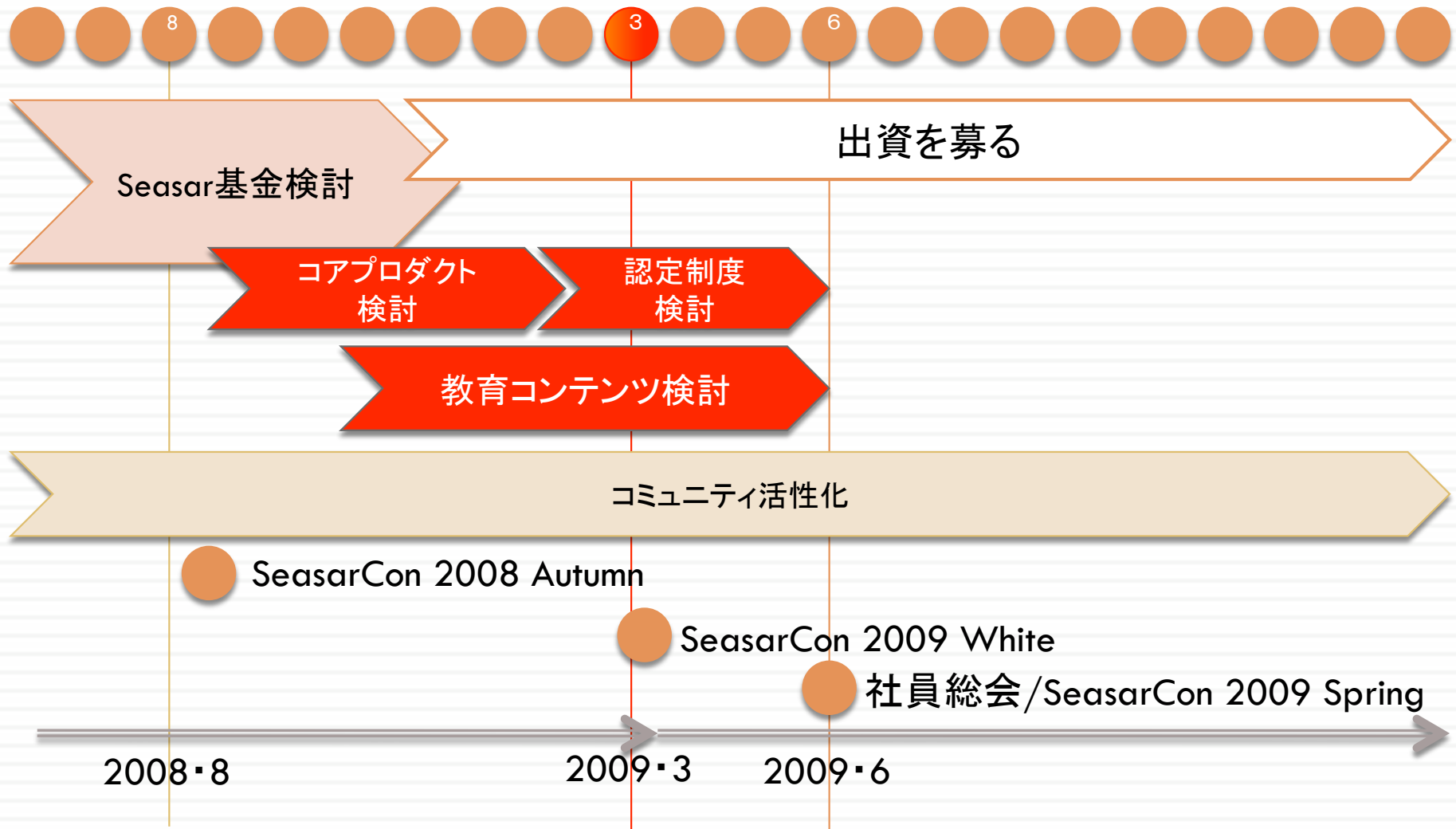


Seasarファウンデーション 理事会アジェンダ・資料

2009年4月15日

今後のアクションプラン

月次定例の理事会



3

Seasar Conference 2009 Spring

次回のConferenceについて

Seasar Conference 2009 Spring

4

□ アジェンダ(案)

- ファウンデーション活動報告(社員総会)
 - 認定試験制度の発表
 - 教育事業についての発表
 - 理事改選(選挙)
- セッション
 - Seasar2の開発について
 - ひがやすをさん
 - 歴史を振り返る感じで
 - コミュニティでの交わりで生まれた「発見・発明」の話などあればなお良い
 - Seasar2事例発表
 - iSID
 - グルージェント
 - ヌーラボ
 - その他、事例のある企業
 - OSSの車窓から
 - 喜多さん
 - OSSの今後
 - 栗原さん
 - Seasar Conference 2009 White の内容
- パネルディスカッション
 - 他コミュニティを交えて、「コミュニティについて」などどうだろうか？
 - OBCI(ビジネス)などの路線

□ コンセプト

- OSS開発コミュニティの今と、Seasar2のこれからを感じるカンファレンス
- イベントを行ったあとのイメージ
 - エンタープライズな雰囲気が1.5割ほど増えた感じになる
 - 大中企業ユーザへのアプローチができる
 - 協賛して貰いやすい感じになる
 - Seasar2が新たなステージにあがったような感じになる
- 会場は800人の部屋を準備中
 - 6月13日(土)
 - 法政大学
- 資金調達
 - 今年度は、積極的に協賛等を求めている為、現在、イベントを行う費用が捻出できない

来年度の Seasar Conference について

□ Seasar Conference 2009 Spring

□ <http://event.seasarfoundation.org/>

□ 6月13日(土)

□ 外濠校舎 6F: S601 30 | S602 30 | S603 30 | ホール
870

□ Seasar Conference 2009 Autumn

□ <http://event.seasarfoundation.org/>

□ 9月12日(土)

□ 外濠校舎 3F: S301 30 | S302 30 | S303 30 | S304 32 |
S305 403 | S306 210 | S307 210

費用

6

- 3/25現在銀行預金 ¥945,012
 - ▣ 未払費用 373,800-(SeasarCon White事務局費)
 - ▣ 会費徴収 ¥13,000-
- 4月末予想残高 ¥584,212
 - ▣ かりうじて、SeasarCon 2009 Spring実施可能か？

SeasarCon White 事務局以外の費用

項目名	金額
イベントサイト	45,400
スタッフTシャツ(デザイン)	60,000
旅費交通費	150,000
総計	255,400

7

会員管理システム稼働

4月11日に公開(公式には13日?)

The screenshot shows the ITpro website interface. At the top, there's a navigation bar with categories like 'ビジネス', 'PC', 'IT', 'テクノロジー', etc. Below that is a banner for 'SPECIAL' about a forum. The main content area features a news article titled 'Google App Engineで動くJavaアプリ、早くもサイオスが提供' (Google App Engine-powered Java apps, SaaS provided early). The article text discusses the migration of Java applications to GAE. A sidebar on the right contains a 'ログインしていません' (Not logged in) notice and a yellow box with the text '日本銀行などが、リスクマネジメントの具体的・実践的な手法を講演!' (Bank of Japan etc., presenting specific and practical methods for risk management!). At the bottom, there's an 'アクセスランキング' (Access Ranking) table.

情報システムのトピックス

- メルマガ「IBM Maximo News」創刊！最新技術・セミナー情報をお届け
- HDDではなくSSDで約80%の省電力化を実現するサーバーとは？
- 【富士通の変革】PCサーバー(新価格)本体が最大49%引き下げ
- After J-SOX ~真の「企業価値向上」を考える、好評連載中！
- グリーンITは今や、IT部門が取り組むべき最も重要な課題の一つに

ニュース

Google App Engineで動くJavaアプリ、早くもサイオスが提供

記事一覧へ >>

サイオステクノロジーは2009年4月13日、米グーグルが提供するPaaS「Google App Engine (GAE)」で稼働する業務アプリケーションをJavaで開発したと発表した。NPO法人「Seasarファウンデーション」が利用する会員管理アプリケーションがそれで、あらかじめ「J2EE」で稼働するプロトタイプを開発し、GAEのJava対応に合わせてアプリケーションを公開した。GAEのJava対応は、4月7日(米国時間)に米グーグルが発表したばかり(関連記事)。サイオスはいち早くこれに対応した格好だ。

サイオスはGAEのJava対応を予測し、「GAEで稼働するJava製業務アプリケーションの一番乗りを目指して」(同社)開発を事前に進めていた。7日に発表されたGAEのJava APIが標準のJava APIとほぼ同一だったため、GAEのJava対応後は実質2日でプロトタイプをGAEに移植できたという。これまでGAEでは軽量言語「Python(パイソン)」しか利用できなかった。

Seasarファウンデーションが利用する会員管理アプリケーションは単なる会員情報管理だけでなく、会員が米ペイパルが提供する決済サービスを使用して会費を支払う機能なども備える。会員情報を格納するデータベースには、GAEの標準データベースである「BigTable」を使用している。

(中田 敦=日経コンピュータ) [2009/04/13]

コメントを読む／書く | ITproブックマーク | 印刷 | 記事一覧へ >>

ITproからのお知らせ
Web2.0の次はコレ！
「ライフログ・サミット2009」
システム障害や自然災害・・・
経済危機時代の「事業継続」

ログインしていません
・ITpro会員の方はログインして下さい
・ITpro会員でない方は、ぜひ会員登録をお願いします

ログイン | ITpro会員のメリットとは

日本銀行などが、
リスクマネジメント
の具体的・実践的な
手法を講演！

アクセスランキング			
エンタープライズ・クラウド		情報システム	
昨日	週間	昨日	週間
2009年04月14日			
1	Sun	最高オープンソース責任者、「Google App Engine」のJavaサブセット化を批判	
2	ローソン	がForce.comを基盤にした情報管理システムを稼働	
3	Google App Engine	で動くJavaアプリ、早くもサイオスが提供	
4	[ITproカンファレンス: Amazonクラウド] EC2は早くて安いけどHA機能が足りないーブリファードCTO		
5	グーグル	、キーワード広告「AdWords」を機能刷新	
6	モディファイ	が企業向け「Twitter」を商用化、社内のつぶやきで情報共有	
7	[ITproカンファレンス: Amazonクラウド] クラウド時代のDB技術はこうして作られたー NTT未来ねっと研の井上氏		

9

NPO營業資料作成

営業資料作成

10

- NPOの団体向け会員勧誘資料
 - ▣ フライトシステムコンサルティング杉山さんに依頼
 - ▣ 社内のデザイナーの方を動員いただいて4月中
- 出来上がり次第に、活動
 - ▣ (要議論)

11

サポートDBについて

サポートDB

- Seasar-User MLのDB化
 - ▣ Seasar-User MLから吸い上げて、有用な情報をデータベースにする
 - ▣ Seasar-User ML、およびJIRAから吸い上げツールを作る
 - ▣ 未踏本体に提案
 - http://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2009/2009_1/hontai/koubo.html
 - MLおよびWeb上から情報を集めるツール
 - 有志メンバで概要設計する
- iSIDさんはどのようにしているか
 - ▣ サポートする為にどういうことをするといいいのか？を聞く

13

試験認定制度について

目的

14

- ユーザーがSeasar2を選択する機会を増やす
- デベロッパの技術水準を明確化することで、ビジネスチャンスにつなげ易くする

認知度アップ

利用者(ユーザー、デベロッパ)を増やす

ビジネスシステムでの利用促進

- 考慮

- UMLやXML認定試験のように、形骸化した制度にしない
 - ビジネスにつながり難い

実行手順

15

- マーケティング市場調査
 - ▣ SeasarCon2009Springにて行う
- 認定制度告知
- システムの導入
 - ▣ チョイススタジオと調整
- 問題作成
 - ▣ 古川、橋本で推進し、作成する
- 合格者カード等の作成
- プレス対応

試験科目と概要

16

- プログラマー
 - Seasar2及び関連技術を使って適切なプログラミングができる技術及び知識を有しているか
 - より、実務的な知識を問うため、以下の項目を網羅する
 - Seasar2、S2Dao、Struts、Java EE(Webコンポーネントまで)など
 - 試験方法
 - 筆記及び選択形式
- アーキテクト
 - システム要件に応じて、Seasar2及び関連プロダクトを適切に選択できる
 - 適切なアーキテクチャ及びデザインパターンを提示できる
 - 試験方法
 - 筆記及び選択形式
 - 要件書から設計実装した結果レポート提出
- オプション(中期的計画)
 - SAStruts、Teedaなど個別プロダクト

特典

17

- 合格者のHP掲載
- Webや雑誌等の執筆機会の提供(アーキテクト)
- Seasarカンファレンスでのセッションスピーカー(アーキテクト)
- ユーザー/デベロッパ企業への通知
 - ▣ 会社/氏名
 - ▣ 関係企業には、なるべく認定試験合格者をプロジェクトに参加させるように呼びかける

実施環境

18

- ちょいスタディー
 - ▣ 選択問題
 - ▣ 結果の集計レポート
- Irenka
 - ▣ ソースコード、設定ファイルの記述など、直接入力問題の評価

実施方法(手順)

19

- 受験料
 - プログラマ
 - 1回だけ ￥5,000
 - 合格するまで ￥20,000
 - アーキテクト
 - 1回だけ ￥10,000
 - 合格するまで ￥30,000
- 手順
 - Webからの申し込み
 - 振込み確認
 - アカウント/パスワード発行
 - 試験実施
 - 結果の通知

今後の課題

20

- Seasa2の標準バージョンを定める
 - ▣ Ver2.3と2.4では、大きく機能が異なるため標準的な安定度と機能を備えたVerが必要
- 比嘉さん、小林さんと打ち合わせをし、枯れたバージョンを作成することを検討する